TAKASHIMAYA art information

高島屋大阪店 6階 美術画廊のご案内 2026 9・10月

10月7日(水)～12日(月・祝)

－毛糸物語－ 西田 藤夫 展

西田藤夫先生は、イタリアルネサンスの伝統技法に裏打ちされた、静謐で優しく、観る人の心を癒す作品で高い評価を得ておられます。今展では20年以上描いてこられ、西田先生には「優しさが一杯詰まった惑星のように魅力的に見える」毛糸だまをモチーフにした作品を中心に発表していただきます。3年前に40数年滞在されたイタリアから帰国し、制作の拠点を日本に移された西田先生の新境地の作品の数々をぜひご高覧ください。



「無言劇」(100号F)

唐津 徳澤 光則 展

このたび 高島屋大阪店におきまして、唐津焼の技法をもって、須恵の地で作品を制作される徳澤光則先生の展覧会を開催させていただく運びとなりました。先生は、日本伝統工芸展や公募展、個展などを中心に精力的に作品を発表し、全国各地で活躍されています。また、茶の湯 お道具としての"用の美"を追求されながらも、神秘的な生命力溢れる独自の新たな世界観を演出した作品を制作されています。今展では、貴重な唐津の土、唐津の釉薬、そして様々な表情を魅せる窯変にこだわり、大胆な造形美溢れる茶碗、水指、花器、器作品など、受け継がれてきた伝統と技・美意識を礎としながらも、絶え間ない革新を重ねることで深化してきた唐津焼の魅力を体現する新作の数々を一堂に展観いたします。ぜひご高覧ください。



「粉引茶碗」
(11.0×10.7×高さ9.5cm)

10月14日(水)～19日(月)

十三代 三輪 休雪「雪山－SESSEN－」

先生は、1951年山口県萩市に生まれ、1975年アメリカ サンフランシスコ・アート・インスティテュートに留学、1984年「DEAD END」で鮮烈にデビューを飾られました。刀で土を斬り出す独特の造形技法と伝統の白萩釉を融合させた作品は、近年、国内外のアートシーンでも高く評価されています。本展では、かつて高島屋で発表の代表作「花冠」「雪嶺」からさらに深化させ、自然のダイナミズムを具現化した新たな境地「雪山(SESSEN)」を発表いただきます。混迷をきわめる現代において、土が持つ圧倒的な生命力と、人々の幸福と安寧を願う先生の切なる思いが込められた作品の数々。その創作の軌跡を、ぜひご高覧ください。



「雪山」
(28.6×28.0×高さ58.5cm)

山本 真澄 日本画展 －風のゆく先－

大阪高島屋では初となる山本真澄先生の個展を開催いたします。山本先生は世界各地の民族衣装を纏ったこどもたちを描いた作品で高い評価を得ておられます。こどもたちは、人と神仏のあわいに佇むような存在として描かれ、その無垢な眼差しは、言葉にならない感情を映し出すとともに、どこか神秘的な気配を感じさせます。それぞれの土地で育まれた美しさや物語に敬意を払いながら、一つの画面の中で自然に響き合う景色として描かれた作品たちをぜひ、ご高覧ください。



「Filaments」(30号F)

10月21日(水)～26日(月)

パステル画の小宇宙 大津 英敏 展

大津英敏先生の個展を開催いたします。大津先生は1943年熊本市生まれ。東京藝術大学大学院を修了され、その後、独立展の「独立賞」をはじめ、安井賞展の「安井賞」等数多くの賞を受賞。現在は、日本藝術院会員、独立美術協会の中心メンバーとして個展やグループ展で活躍されています。近年はアトリエを構える鎌倉の、自然豊かな海の表情とともに、家族を描いた作品も発表されています。今展では、パステル画による大作から小品まで、新作を一堂に発表いたします。この機会にぜひご高覧ください。



「セーヌ川のレザンドレ」
(24×31cm)

丸山 達也 木彫展

人とは異なる姿かたちをもつ動物たちに強い憧れと魅力を感じ、その思いを繋に託して制作されている丸山先生の3年ぶりの個展です。中を空洞にし、漆を使用しての接着や彩色という古典的な技法で絶滅危惧種や貴重な生きものを表情豊かに制作されています。



「The march was ringing-Quagga's record-」
(38×28×高さ22cm)

10月28日(水)～11月2日(月)

伊藤 はるみ展 －風のゆくえ－

伊藤はるみ先生の9年振りの個展を開催いたします。伊藤先生は四季折々の草花や自然の風景をモチーフに、気品と繊細さを兼ね備えた写実的で詩情豊かな画風が高い評価を得ておられます。花びら1枚1枚や葉脈に至るまで細部が精密に描きこまれ、花そのものが画面いっぱいに広がるダイナミックかつ叙情的な構図は観る人を魅了します。ぜひご高覧ください。



「杜若」(10号F・軸装)

壺井 義統 作陶展

このたび壺井義統先生の展覧会を開催させていただきます。先生は伝統的な印華紋をつかった魚や鳥の紋様を施した陶器をお作りになられます。長年にわたる熟練の技が凝縮した約50点の作品をぜひご高覧ください。



「双魚紋壺」(径21.0×高さ22.5cm)

Takashimaya OSAKA

TAKASHIMAYA Art Information NEXT

2026 9・10月

高島屋大阪店 6階 ギャラリーNEXTのご案内

10/7(WED)▶19(MON) ※10月13日(火)は開催いたします。

杉山 佳 展 －絵のある部屋－



「並ぶ木々」「桜」「黒い猫」「チューリップ」「鯉のぼり」「たぬきケーキ」
(各12×12cm／麻紙・岩絵具・膠・クレヨン)

本来そこにあるべきものが存在しないことを意味する「不在」をテーマに、具体的な対象、すなわち「存在」を描くことで間接的に立ち上がる「観念としての対象」を表現される杉山先生の作品は日本画の岩絵具とクレヨンの線が優しく語りかけてきます。待望の初個展では100枚の小さな作品を発表。お客様にお好きな作品を組み合わせ額にはめていただく、オリジナルフレーミングを展開いたします。作家との共同作業をお楽しみください。

10/21(WED)▶11/2(MON) ※10月27日(火)は開催いたします。

富田 美樹子 展 －生命の紋様を紡ぐ－



先生は1972年大阪府に生まれ、1996年に京都市立芸術大学工芸科陶磁器専攻を卒業。艶やかで緻密な色絵金彩など多様な表現手法を用いた有機的な造形作品で評価を得ている作家です。宗教建築物や装飾、自然界の法則からインスピレーションを受けた独特の紋様表現は、単なる装飾表現ではなく内なる衝動による秩序と美が宿った根源的な本能に近い行為と捉えた独自の世界観を確立しておられます。今展では、オブジェから器形の作品まで代表作を一堂に展観いたします。

「Pulse of Origin－起源の鼓動」(40×40×高さ60cm)

TAKASHIMAYA *art information*

髙島屋大阪店 6階 美術画廊のご案内 2026 11・12月

※美術画廊・ギャラリーNEXTは原則毎週火曜日を準備日とさせていただきます。
店舗の営業日・営業時間等につきましては髙島屋ホームページにて最新情報をご確認ください。
※展覧会内容は変更・中止になる場合がございます。
※作品によっては、会期前に売約済みとなる場合がございます。
※作品の販売に関するお問い合わせは、美術画廊係員までお願いいたします。

11月4日(水)～9日(月)

傘寿記念 六代 川端 近左 漆芸展

このたび川端近左先生の傘寿を記念した展覧会を開催させていただきます。伝統と歴史ある茶の湯、お道具の用の美にかなった彩り豊かな漆芸作品を制作される先生は、大阪市に生まれ、京都市立芸術大学を卒業後、父・五代に師事し、六代を襲名されました。今展覧会は蒔絵を中心に漆絵、イジ塗や錆塗など様々な技法を駆使し、常に新しいアイデアと挑戦をもとに、自身の想いに妥協せず創作された、貴重な作品を一堂に展観いたします。ぜひご高覧ください。



「紅葉流水蒔絵大棗 内銀溜」

11月11日(水)～16日(月)

彫刻になった生き物たち

木、ブロンズ、石、テラコッタなど色々な素材による個性的な表現の“彫刻になった生き物たち”をぜひご高覧ください。

〈出品予定作家〉

秋山 隆	明田 一久	いしばしめぐみ	エサシトモコ	榎戸 項右衛門	遠藤 幹彦
加藤 貴志	神崎 泰志	木村 俊也	新谷 一郎	新谷 聡子	神保 琢磨
杉浦 康司	征矢 剛	玉野 勢三	野桑 敏哉	橋本 和明	平野 千里
平松 嵩児	藤本 明洋	丸山 達也	横田 千明	吉川 かおり	ほか

（敬称略・50音順）



平野 千里「福羊」
(20×20×高さ14cm※台座含む)

11月18日(水)～23日(月・祝)

第40回 青渕会 −標−

故・大山忠作先生によって命名された青渕会も最終回となります。成熟し、互いを尊重しつつ美の神髄を洗練させてきたことでこそ成し得た、標としての集大成をぜひご高覧ください。

〈出品予定作家〉岡 信孝　奥村 美佳　小田野 尚之　川島 睦郎　川嶋 渉
竹内 浩一　土屋 禮一　牧 進　森田 りえ子　森本 純
山田 伸
〈特別出品〉松本 勝　（敬称略・50音順）

※森本純先生の作品は抽選販売とさせていただきます。



森田 りえ子「秋華」(12号)

11月11日(水)～23日(月・祝) ※11月17日(火)は開催いたします。

福福吉祥 展

日本画・洋画の人気作家による、富士・松竹梅・干支の未など、吉祥モチーフの作品を一堂に展覧します。それぞれの作家の個性が溢れる作品の数々をぜひご高覧ください。



平良 志季
「この年をお願い」
(4号)



粂原 愛
「梅見月 伍」
(6号)

11月25日(水)～30日(月)

灰原 愛 展 空と花と人と

東京藝術大学、大学院で学び修了翌年から積極的に作品を発表、海外でも人気の灰原先生の3年ぶりの個展です。アクリル絵具で彩色された優しさあふれる色をまとう少年少女の作品はこどもの頃の素朴さや、自然の中で不思議さを感じたり夢をみた頃を思い出させます。



「花になる夢を見る」
(31×31×高さ24cm)

西久松 綾 展 −生命のすがた−

百貨店では初となる個展を開催します。西久松先生は様々な水中生物を飼育し、日々観察を行い、「研究成果」として作品制作をされています。生き物たちの豊かな表情や関係性が緻密かつコミカルに表現された作品をぜひご高覧ください。

「霧の隠れ里南丹河床図」(6号)



TAKASHIMAYA Art Information 2026 11・12月

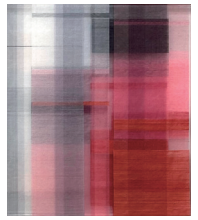
髙島屋大阪店 6階 ギャラリーNEXTのご案内

※美術画廊・ギャラリーNEXTは原則毎週火曜日を準備日とさせていただきます。
店舗の営業日・営業時間等につきましては髙島屋ホームページにて最新情報をご確認ください。
※展覧会内容は変更・中止になる場合がございます。
※作品によっては、会期前に売約済みとなる場合がございます。
※作品の販売に関するお問い合わせは、美術画廊係員までお願いいたします。

11月4日(水)▶16日(月)

※11月10日(火)は開催いたします。

寺川 真弓 織展 −天の虫−



寺川先生は、自ら蚕を育て、繭から糸を引き、草木で染めて繰り上げる染織作家です。自然の循環と生命の営みに寄り添いながら、糸の表情や柔らかな色彩によって風景や光の気配を詩情豊かに表現します。工芸の技術と深い精神性が融合した、温かく静謐な作品をお楽しみください。

「Light Field 1 紅」
(73×63cm)

高島屋のサステナブル・アクション TSUNAGU ACTION

11月18日(水)▶30日(月)

※11月24日(火)は開催いたします。

新宮 さやか 展



新宮先生は、1979年大阪府生まれ。2001年に大阪芸術大学芸術学部工芸学科陶芸コースを卒業後、植物の形態をした陶のオブジェを制作して注目を集める気鋭の作家です。針状に埋め尽くされた花芯、大きくゆらぐ花弁など、その蠢くような妖艶な美しさには、作者が思う自然の在るものたちへの畏敬の念がこめられています。今展では、花のオブジェ、蓮の葉や、器形に花弁を施した新たなタイプの作品も加え発表いたします。陶によるモノクロームの幻想世界をお楽しみください。

「熾の陶」(42×38×高さ27cm) 撮影:淵 忠之

12月2日(水)▶14日(月)

※12月8日(火)は開催いたします。

呉 亜沙展 −聞いてるし、聞いてない−



日々の暮らしの中で出会う風景や人との関わり、心の奥にある記憶や感情など、目には見えない存在を、柔らかな色彩で繊細に表現される呉先生の待望の関西での初個展です。人間が整備した都市空間に蔓延(はびこ)る雑草、その対比に大人とこどもを投影し、未熟と成熟の間に自身がいることの再認識の表れとなる作品をお楽しみください。

中央:「mute」(10号)
左右立体(ペア):「behind the words」(左:19×19×高さ56cm・右:18×18×高さ55cm)